

平成22年度第2回福井県男女共同参画審議会開催結果

1 開催日時

平成22年11月9日（木） 14:10～16:00

2 開催場所

県庁2階中会議室

3 出席者

(1) 委員

6名（石森委員、新道委員、高田会長、増永委員、和田委員、和多田委員【欠席】遠藤委員、吉川委員、塚本委員、林委員）

(2) 事務局

中村総務部企画幹、松森男女参画・県民活動課長、前山参事、男女参画・県民活動課員、男女共同参画推進会議幹事課員、生活学習館職員

4 主な意見

(1) 第2次福井県男女共同参画計画（仮称）の策定について

○ 男女共同参画に関する意識調査の結果概要

〈結婚観、固定的役割分担意識の解消〉

- ・結婚観について、県をまたがる結婚では、女性は結婚した男性の居住地に行く場合が多い。男の住むほうに行くという意識は昔から日本の持っている因習である。嫁のほうに行ったら恥ずかしいという意識がある。知識や能力が女性が優れていても男性が頑として自分の方に来るべきだという考え方に納得できない。
- ・結婚後の女性が就業して社会で活躍するためには、企業内での男性職員のエゴイスティックな考え方や家庭内での夫や高齢者の古い考え方など、固定的役割分担意識をなくさなければならない

〈管理職への女性の登用、女性の能力の活用〉

- ・女性が男性と台頭に仕事をしていくためには、トップがダメといたら何も通らない。トップを説き伏せないといけない。トップに「対等にしていく」と宣言させるのが一番。社長を集めて女性活用の重要性をインプットして女性を登用するようもっていくべき。女性の能力発揮は会社にとってメリットがある。ただ、福井は年配の社長が多いので、時間がかかる。
- ・女性の管理職になることへの意欲についてマイナスの傾向があるのは事実。女性教員の中で、管理職への希望者が少なくなっている。教員が多忙化する中で、女性管理職としていい見本を示せなかったのではないかと反省する面もある。

〈仕事と生活の調和、男性の働き方の見直し〉

- ・自治体の長が育児休暇をとっているが、自治体職員も育児休業を積極的に取ってほしい。また、男性の多い企画や営業の分野に女性が入っていければ、会社も変わってくる。

- ・男女共同参画の問題は、心の持ち方である。女性が子供を産むことを男性はどう思っているのか。男性はどんなことをしてでも助けていくことが大切である。女性が子どもを産むことの大切さやすごさを男性は理解しなければならない。
- ・就業時間を短縮できないのは、部長以上が遅くまで会社にいるから。管理職が早く帰ることにより職員も早く職場から出るためにどうしたらよいか考えるようになる。
- ・ワーク・ライフ・バランスについて、限りのある勤務時間の中で、どうすれば効果的に仕事をこなしていけるようになるかという仕組みを考えていかなければならない。
- ・県民が社会活動への時間が取れていないことについて、未婚・既婚別のデータがあるとよい。

○ 男女共同参画推進の成果と課題

〈女性の能力の活用〉

- ・これからの日本経済がよくなる中では、働く環境は、もっと女性が働きやすい方向に進んでいく。女性が持っている能力は男性にない優れたものがあり、自分からやりたいと希望する女性を積極的にサポートしていかないとこれからの企業はよくなる。
- ・世界経済の厳しい中で、男性も女性もみんな力で力をあわせてどうしていったらいいか考えなければならない。男性も女性も競って子どもを育てていかないといけない。男と女とか言っている場合ではない。子育ては奥さんだけに任せると言っていたら日本は吹っ飛ぶ。
- ・ものを考える場合には、男性は男性、女性は女性の考え方を示していけばいいが、別々にものを考えるのではなく、一緒に何をしていったらよいかを考えていかなければならない。現実を見て考えるべきであり、自分の子どもが20歳になっても豊かに生活していけるのかを真剣に考えなければならない。

〈固定的役割分担意識の解消〉

- ・家族が大切であり、基礎である。家庭から男女共同参画を進めていくことが大切であり、家族が成り立って社会が成り立つ。
- ・教育現場では、家庭と学校と地域の連携を図っている。また、学校では、キャリア教育に力を入れており、「10年後、20年後あなたはどうなっていたいか」というような、自分の意思で人生を切り開いていける教育に取り組んでいる。
男女共生には、男女の区別はあり、性差がある。一昔前は変な誤解があったが、性差をきちんと理解したうえで教育している。

〈仕事と生活の調和〉

- ・女性は女性で仕事と子育てをやっていく、男性はどんどん女性を手伝っていくことが当たり前の世の中にならないといけない。

- ・企業が女性活用の重要性をどう認識するかが重要。また、家庭が大切であり、特に三世代同居の高齢者や地域の人々がいろいろ言うことが若い女性の活躍を阻害する要因になったり、トラブルになったりする。小さな家庭の中では、高齢者も男性も女性を支援していくことが重要。
- ・女性が働きやすくなるためには、夫や家族の中で話し合っ理解してもらうことが必要。また、現場ではトップの考え方が変わると環境も変わる。トップの意識改革が重要。
- ・福井県は、子育て支援については充実しているが、子どもが病気になったときのサポート体制の更なる充実が必要であると感じている。
また、高齢者に対しては、在宅でバランスをとって生活していくことが必要。介護は1年や2年で終わらない。
障害者、障害児のケアについても家庭でケアしている人にとって厳しい状況にある。生活と仕事のバランスをとっていくことについて、どれだけ支援できるかが大切である。
- ・これまで、子育て施策に偏っていた面はある。介護を病院でも家庭でも女性だけにさせることは大変である。現実を男性に見せ、男性が助けないといけない。
- ・企業での男性の育児休業取得について、目標を定めて強制力を持たせるようにしてはどうか。

〈地域活動への女性の参画〉

- ・地域での参画については、鯖江市で初めての自治会長ということで自治会連合会などで積極的に発言している。発言すれば男性は理解してくれる。地域に女性が出て行けば、自治会の男性も変わっていく。

○ その他

- ・意見を聞く会については、経営者や男性が参加できるよう、企業に周知するなど広報に工夫をしてほしい。